

33 火口にできた湖にはどんなものがあるのだろうか

私たちの住む福島県内には、非常に多くの湖があります。その中で、火口に水がたまって湖になったものには、どんなものがあるのでしょうか。

まず、このことを考えるのに、火口そのものに水がたまった湖（火口湖）と、溶岩を多量に出したあとで、山の一部、または大部分が落ちこんで（陥没）、その部分に水がたまった湖（カルデラ湖）に分けてみましょう。

まず火口湖として、はっきりわかっているものとしては、吾妻火山の中にある樋沼や鎌沼や、五色沼（吾妻山の五色沼）をあげることができます。

これらの沼は、吾妻山全体を作った大規模な火山活動がおこっているときにできたものではなく（吾妻火山が活動した時期については、まだ、いろいろ研究上問題が残されていますが、活動が始まったのは、今から約20万年ぐらい前だと考えられています）、約1万年ぐらい前にできたものだろうと考えられています。

吾妻の浄土平に行くと、すぐに見られるのは、図-97の吾妻小富士ですが、これは、火口そのもので、中を見ても水がたまっていません。ところが、そのすぐとなりがわに、樋沼のある台地（火山碎屑丘）が見えます。この沼は、針葉樹などの森に囲まれた本当に静かな、しかも小さな湖で、なんとなく心の安らぎを与えてくれます（水面高度 1,590 m、面積 0.02 km²、深さは最大13m）……（図-96）。

つぎに、この湖の西側の高台（海拔 1,750 m）に鎌沼があります。この湖は、浄土平から少し歩かなければなりません、やはりとっても静かな湖で（面積 0.05 km²、最高深度 1 m）吾妻の湖では、もっとも大きなものです（図-98の a）。

さらに、一切経を過ぎて北側に五色沼があります（海拔 1,750 m、深さ 9 m、面積 0.04 km²）。中でも、この湖は酸性が強く、火山の影響を今も受けていることがわかります。

つぎは、カルデラ湖について考えてみましょう。前の項の「火山の地形」で触れた沼沢湖はその代表的で、そのほか、猫魔火山の中にある雄国沼をあげることができます。カルデラ湖のでき方については、「火山の地形の項」を見ることにしてここでは略すことにします（沼沢湖、面積 2.98 km²、海拔 474 m、深さ 96 m、日本で13番目の深さを持つ。雄国沼、海拔高度 1,089 m、面積 0.48 km²、最大深度 4.5 m）。これらのデータをもとに、さらにこれらの湖を良く観察しよう。